



女性限定 Member's Club

「心の持ち方」が重要

室井 佑月さん

第3回講演会「仕事の楽しさ」より

profile

1970年青森生まれ。ミス栃木、モデル、女優、レースクイーン、銀座のクラブホステスなどの職業を経た後、97年に「小説新潮」の「読者による『性の小説』」で入選。「血(あか)い花(集英社)」、「ママの神様(講談社)」、「ぷちすとハイパー!」(中央公論新社)など著書多数。最近では、若い女性の代弁者、恋愛の教祖、母親の立場から、テレビやラジオでコメンテーターとしても活躍している。

作家であり、家に帰れば小学4年生の男の子を育てる母親でもある室井さん。会場からの質問や、トーク終了後にSALAスタッフとの談話に応じてくれた中から、記者が印象に残った言葉を「語録風」にまとめてみた。



「村上」が離婚の原因?!

離婚に至った一番の理由は、元だんなが外に女の人がいいたからではなく、私は村上龍さんが好きで、向こうは村上春樹さんが好き。どっちが素晴らしいかで、めちゃくちゃ険悪になってしまい、それがずっと続いていた。私うそ付けられない。

友達親子は嫌い

大学などで講演すると、「大人になるのがやだ」とか「働きたくない」という若い子が多くて、それはすごく不幸なこと。私は早く大人になりたかった。家では息子にテレビのチャンネル権はない。それは私が買ったテレビだから。本屋でも私はまとめ買いするけれど、息子は1冊。「大人子供」みたいにして世の中に出すと、周りからも愛されないで、体は大人なのに頭の中が子供だと迷惑をかける。だから今はきっちりと「子供である」という風に扱っている。友達親子は嫌い。

くだらないことでも…

一個一個を忘れない。どんな仕事にもギャラは発生している。くだらないと思うことでもやるべきことはやる。それが生活を支えているのだから。物書きはものすごく競争が激しい。その中で若い人がよく失敗するのは、例えば30分の小説の中で編集者から5、6分はエロシーンを要求されても、やらない。違う部分で自分の書きたいことを発揮して、要求を受け入れる。そうして読者の支持を得ることができるのならばいい。

バカな男はごめんさい

男なら新聞ぐらいちゃんと読んで欲しい。バカでかわいいのは女だけ。やっぱり男には、自分は何のために生まれてきたのか、きりきりとしてもらいたい。新聞も読まないで、ファッションや車の雑誌ばかり、週末は友達と飲みに行くとか。それでは会話が成り立たない。



「もし、十勝で住むのなら、長崎屋のあたりがいい」。飾らないトークで会場を笑ませた室井さん

帯広の印象は。すっぴんって。空を降らせてここに着てみると、真が真っすべなのに感動しました。信がいないです。煙で育っているのが小麦と、いとこの。夏に来たらまた気持ちいいなと思う。息子が春休みなので連れて来て泊まればよかった。札幌には結構来ていますが、北海道の魅力って、こちらの方が勝るかもしれない。作家の仕事始めた経緯は。ずっと銀座のクラブでホステスをやってたんですけど、私、お金の計算とかがルーズなんです。お姉さんと呼ばれるホステスたちは自分で

十勝毎日新聞社が主催する女性限定会員制クラブ「SALA(サラ)」の第3回講演会が、3月28日午後3時から帯広市民文化ホール小ホールで開かれた。作家の室井佑月さんが「仕事の楽しさ」をテーマに『室井流』の生き方を司会者とのトーク形式で紹介した。室井さんは、飾らない人柄で会場を魅了、シングルマザーとして強く生きる母親の一面もみせた。

必要とされるからこそ頑張れる

目に見えないお店を二軒持っているようなものなんです。クラブを借りて営業させてもらっているという感じ。私は飾りがないので借金を負ったらどうしようという不安もあって、ずっと日当で働いていたんですけど、ずっと見渡すと全員の自分より若かったです。何か新しいことを探さなきゃ、思いついたのが物書きです。それが14年前のことです。一やろうと思っただけでも、必要とされるから頑張れる

「いらぬ」と言われ…。自分の向いている仕事が好き。な仕事は意外と違うといいますが。私はいろんな仕事をしてきたんですけど、どこからか「いらぬ」と言われ続けてきたんですよ。OLをやっていたときには社員なのにアル

今季最後のイベントには、多数の会員が訪れた。会場から室井さんへの質問も受け付けた



「仕事の楽しさ」という教えるべき。自分で楽しむと思わないと楽しめないものだし、自分の心の持ち方だと思えますよ。今更な仕事で一番得意だったのが、ディレクション。すごく退屈だったんですけど、3人の人から「ありがとう」と言ってもらった。それをマニマにしたら乗らなっちゃって。テレビの仕事は出演者でもスタッフでもその場限りの好きなことを決めるので

物事には終わりを。最後に会場の皆さんにメッセージを。みんな一人ひとりに事情があったら、今更な人ももうでない人もいると思うけど、いいことも悪いこともみんなに続かない。物事には必ず終わりが来る。私は40歳です

が、過去に一回くらい死にたいと思ったんです。一番最近では、20代で5000万円の連帯保証人になってしまった。でも死ななくてよかった。子供も産んだ。最近になって思うことは、本気で死にたいことばっかりに冷たい人間はいないもの。若いころは友達関係でも優位に立ちたいと思ってる人があって、人の悩みは聞いても、自分の悩みを話せなかった。乳飲み子を抱え借金を抱え、早く返さないと月60本の連帯を抱えていた。寝てなくてパニックになって、「私死ぬか」と言ったら、周りの人がとても気持ちよく助けてくれたんです。今までで心を癒してくれた人になって。私も友達や周りの人が困っているときに助けてあげれば、私も困っているときに言ってもいいんだと気付いたんです。

「やりたいことをやっている。室井さんにあこがれます。やりたいことでも仕事したらいいんです。楽しんでいって聞かせないともう嫌かもれません。1年にも一回くらい仕事を支えて生きていく方法を考えるんですけど、早くが当たっても3ヶ月くらいは遊んで暮らすけれど、それでも私は働いていこうか。私の場合、だんなもいないし、恋人もいない。息子もいない。息子は、母親から無条件に私を慕ってくれるけれど、よそ

る私、みたいな。仕事をできる時期は実は限られています。子供時代は親の支配下にあり、年を取ると体が思うように動かなくなると、高校や大学を出てからは、自分の仕事ではない。楽しんで仕事をできる時間は限られているので、だったら楽しんでいこうと思っただけです。

ロビーイベント
会場ではSALA協賛企業のサロン・ド・ポテ アイベルラ(帯広市西3南23、飯尾憲子代表)、石岡時計店(帯広市西12南13、石岡正雄社長)による「一層の描き方アドバイザー」や「ハンドマッサージ体験、美肌効果があるという「フランスセラ」の試飲を行い、来場者が開演前のひとときを楽しんでいた。

2010年度 会員募集中

SALA会員限定講演会 講師決定

vol.1 2010.6/12(土) 15:00 会場:帯広市民文化センター	vol.2 2010.11/6(土) 14:00 会場:帯広市民文化ホール小ホール	vol.3 2011.3/13(土) 14:00 会場:帯広市民文化ホール小ホール
--	---	---

【年費】6,000円(20歳以上女性限定)
●年3回の講演会への参加他、様々な会員特典があります。
お問い合わせ/十勝毎日新聞社事務局内[SALA]事務局 ☎0155-22-7555(月-金/9:00-17:00)
※詳しくは、SALA公式HP <http://www.web-sala.com/>

文=酒井花、澤村真理子、写真=折原徹也、紙面編集=坂本優子

SALAサポート企業(五十音順)

